

〔研究ノート〕

異文化学習を取り入れた韓国語の 翻訳授業の実践とその効果

——日本人韓国語学習者の韓日翻訳活動を通して——

文 吉 英
朱 炫 妹

I はじめに

近年、日本における韓国語学習者が毎年増加しつつある。その背景には、2000年代以降韓流ブームにより韓国のドラマや映画、K-POPへの関心が高まっていたことがある。また大学においては基礎・初級レベルの教養科目（共通科目）のみならず、中上級レベルの専攻科目としての韓国語の授業を設置する大学も増えている。このことは、日本人韓国語学習者が量的、質的な面において成長し続けている（임형재・우메무라 마유미, 2019）ことを意味する。

一方、国際社会のみならず地域社会においても多文化、多言語の使用が日常化している中、日本国内でも通訳や翻訳に対する需要が増加しており、このような変化には高等教育機関である大学が対応すべきである（武田, 2013）という指摘がある。大学における韓国語の授業は文法、語彙、表現などの言語学的な要素に重点が置かれている授業が多く、通訳や翻訳の授業においても同じような進め方をしている。翻訳活動を通じて向上されるべき能力として、原文を正確に理解する能力、読み手に起点言語の意味が正しく伝わるように日本語で正確に変換する能力が挙げられる。このような能力を養うためには、語彙・表現を正確に理解するだけでなく、起点言語における文化的な概念や意味も深く理解する必要がある（ワリード・イブラヒム, 2019; 文, 2020）。つまり、翻訳授業においては、既存の語学的な能力を身につけるための学習に加え、起点言語・文化に接し、理解する力を育む学習も同時に行われることが望ましい。

本研究は、昨今の韓国語教育の変化、通訳や翻訳に対する大学教育への要求といった現状をうけ、大学の中上級レベルの学習者向けの韓国語の授業に焦点を当て、文化理解を目標とする異文化学習に取り入れた新たな翻訳授業の設計を試みる。また、このような異文化学習後の翻訳活動によって韓国語学習者の異文化理解力が育まれることの可能な授業とは何かについて検討することを目的とする。

II 先行研究と研究課題

本章では、韓国語教育における文化教育と、翻訳活動における異文化理解に関する研究について考察し、最後に本研究の研究課題について述べる。

まず、韓国語教育における文化教育に関する研究には、최정순 (2019)、金珉秀・村上 (2019) 等がある。최 (2019, 同上論文) は、韓国語教育の言語教育と文化教育における現状と動向について記述している。とりわけ、韓国文化教育における動向として、1990年代後半より目標文化教育が台頭され、単に文化教育に焦点が当てられたのではなく「言語文化教育」としての議論が主であったと分析している。また、韓国文化教育において相互文化理解が重要であると主張している（同上論文, 17ページ）。韓国文化教育がなぜ必要であるかという問いと、どのような授業設計が望ましいかという問いを主に取り扱っているが、

本研究では、文化理解を通じた翻訳活動を行う授業設計と、授業で取り組む過程について探る。

金・村上(2019, 前掲論文)では、日韓の大学生が協働で学び合う日韓合同授業を実施し、相互に学習言語を使用し互いの文化を理解し、互いの言語を学ぶことを目的としている。「現地学期制度」という研修課程として来日した韓国留学生と、日本人学生を参加者とし、対面で実施されている。授業理解の確認書には、日韓両言語における共通点と相違点、理解度や積極度に関する自己評価を行っているだけでなく、両国の文化について新しくわかったことや面白いと感じたことについても確認している。協働学習として、話し合いの中で互いの文化や社会の理解を深めることの重要性が提唱されている。しかし、実際お互いに接触や交流が難しい場合が多い現状があり、その際の異文化理解のあり方を考察する必要がある。本研究では、翻訳活動を一つの媒介とし、韓国語学習者同士のピアラーニングを用いた異文化学習の実践について模索する。

次に、翻訳における異文化理解に関する研究として、イブラヒム(2019, 前掲論文)、임・우메무라(2019, 前掲論文)等が挙げられる。イブラヒム(2019, 前掲論文)は、翻訳教育と異文化理解について、アラビア語から日本語への字幕翻訳に焦点を当てて述べている。翻訳作業は、言語能力のみならず異文化理解やコミュニケーション能力の涵養が必要であると主張し、文化的に知識や理解が十分備える必要があると記述している。また、임・우메무라(2019, 前掲論文)では、日本人韓国語学習者を対象とした韓国語翻訳教育について述べている。翻訳教育の過程として、翻訳理論研究、翻訳演習、文化に対する理解度を向上させる教科と一般言語学に関する教科があると説明している。また、日本国内における韓国語翻訳教育の課題について、次の4点を挙げている。1つ目は翻訳理論教育を通じた科学的思考能力である。2つ目は文化理解度及び表現力の向上、3つ目は、日本語と韓国語を中心とした言語教育の強化である。4つ目は翻訳教育に携わる教育者の確保である。その中で、本研究で取り扱う課題は、主に文化に対する背景知識と解釈能力の向上である。本研究では、異文化理解を踏まえた翻訳教育の実践を通じ、学習者の翻訳能力向上を図り、向上した翻訳能力を用い、さらなる異文化理解につなげられるための授業設計を検討する。

最後に、上述した先行研究の知見を踏まえ、本研究において次の3点を研究課題として設定する。まず、異文化学習を取り入れた翻訳活動の指導案を提示し、実践した内容を示す。次に、異文化学習が韓国語学習者の翻訳活動の結果に与える影響を翻訳課題の内容から明らかにする。さらに、これらの結果をもって授業での翻訳活動が韓国語学習者の異文化理解へつなげるために実践できる教授法を提案することである。

Ⅲ 研究対象と方法

1. 研究対象

本研究は、大阪所在のA大学の2年生4名(女子3名, 男子1名), 3年生1名(女子)を対象に「ポスト留学韓国語」という教養科目の韓国語の授業を通して2020年12月から1月にわたって行われた。この授業は、韓国の文化や社会に関する様々なトピックについての文章を講読し、韓国語の表現を用いて議論したり作文したりすることで、韓国語のコミュニケーション能力を向上させることを目的とする授業である。この授業は、A大学に設置されている韓国語の科目において上級のレベルにあたり、主に中上級レベルの韓国語能力を持つ学生、もしくは韓国に短期留学や交換留学を経験した学生が受講する授業と位置付けられている。

表1 対象者の属性

番号	性別	韓国語 学習歴	学習機関	渡韓 経験	渡韓目的	韓国語能力 関連資格
A1	女	2年8ヵ月	大学, 独学	1	旅行	TOPIK3級
A2	女	3年8ヵ月	高校, 大学, 独学	1	旅行	—
A3	女	1年8ヵ月	大学, 独学	2	親族・知り合い訪問	—
A4	女	2年8ヵ月	大学, 独学	2	旅行	—
A5	男	1年8ヵ月	大学, 独学	1	旅行	—

今回の対象者は、全員留学の経験のない学生で、韓国語能力と関連する資格を持っている対象者は1名であるが、対象者が受講してきた科目から韓国語能力は中上級以上と判断された。なお、グーグルフォームを利用し、対象者の韓国語の学習歴、韓国語のレベル、韓国での渡韓経験、授業で課されたタスクで使ったツール、課題を行う際に感じたことなどを問う属性調査を行った。調査は、対象者に調査内容が成績評価に反映されないことを事前に説明し、調査への協力は自由意志で決めることとしたうえで同意を求め、受講者全員の5名に参加してもらった。対象者の属性は表1の通りである。

2. 方法

調査は、まず、1回目の翻訳タスク（以下、タスク①）を行い、次回の授業で翻訳した内容と関連する異文化学習を取り入れた翻訳授業を実施し、最後にタスク①で用いたテキストへの2回目の翻訳課題（以下、タスク②）を出す3段階で行われた。

タスク①と②の詳細は次の通りである。まず、タスク①では、13回目の授業時、韓国語の文章への読解と韓日翻訳を練習することを目的に初見文を40分内に日本語に翻訳してみる活動を行った。テキストの各々の文には番号を付し、一つ一つの文に対して参考資料を見たりインターネットで調べたりせずに、学生自身の知識のみで翻訳をするように指示した。翻訳文はタスク終了後、その場で提出してもらった。次に、タスク①の次回の14回目に翻訳授業を行った後、タスク①で翻訳した同様の文章を再度翻訳するタスク②を課題として出した。課題を行う際は、辞書、インターネット（検索エンジンや翻訳サイトなど）、SNS、知り合いなど様々なツールを使っても良いとし、課題作成にかかった時間を記入するように指示した。この課題は、3週間後の最終回の授業日までに提出するようにした。分析は、タスク①の終了後行った異文化学習を取り入れた翻訳授業の影響がどのようなものかを明らかにすることを視野に入れ、タスク①の翻訳文の特徴（誤訳や無表記など）と、タスク②の翻訳文で見られる特徴について検討した。分析対象の詳細についてはIV章で示すこととする。

本研究で用いたテキストは『KBSニュースで学ぶ 時事韓国語』という文献にある「'드라마 명소' 서울 계동 골목의 매력」(訳：ドラマ名所ソウル桂洞路地の魅力)というタイトルの文章で、タイトルを含め計30個の文で構成されている。このテキストを選んだのは、実際韓国の公営放送で放送された真正性に基づいた時事韓国語である点、テキストの韓国語のレベルや文の長さが韓国語能力試験5・6級の合格を目標とする対象者に適合した難易度である点、テキストの中に地名や固有名詞など韓国特有の異文化的な語彙が適切に含まれており、異文化学習を行ううえで相応しいテーマであるという点から対象者の翻訳活動をより正確に評価できると判断したためである。

IV 異文化学習を取り入れた翻訳授業の実践


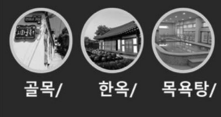
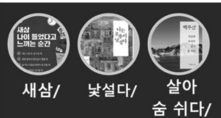
本研究では、本調査の前に韓国語学習者の翻訳能力を育むための異文化学習と韓国語学習とを骨子とした翻訳授業を設計した。ここで言う翻訳授業における異文化学習は、次の2つの概念で構成されるものと定義する。一つは、学習者がまず異文化「受容」の観点から、起点言語と関連する文化、つまり韓国文化に触れることで、もう一つは、学習者が受容した異文化を「伝達」する観点から韓国語のテキストを適切な日本語に訳して、読み手に異文化を伝えてみる練習をすることである。以上のことを踏まえて、異文化学習としては、生活文化的な事象の学習を目指し、「路地(골목)・韓屋(한옥)・銭湯(목욕탕)」の概念を学習項目とした。これらは、原文において学習者が読み、理解し、日本語へ翻訳するうえでキーワードとなる語彙や表現であると判断したためである。また、韓国語学習としては、「改めて(새삼)・見慣れない(낯설다)・(抽象的な意味で)残り続けている(살아 숨 쉬다)」の学習者にとって難しく感じると予想される副詞や複合動詞の語彙・表現を学習項目として設定した。

なお、この翻訳授業は、教員は韓国語の特定の語彙・表現に対してどのような日本語に訳せばいいかについて対象者に直接示さないという授業方針のもとで行われた。また、授業は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、大学の措置としてオンラインで行われた。

1. 教案

授業の教案は、「韓国の社会・文化、(異文化学習と翻訳)、韓国語の語彙・文法(韓国語学と翻訳)に触れながら韓国語のテキストを自然な日本語に翻訳する」ことを学習目標とし、90分の授業のうち、60分間行うことを想定し以下のように作成した(表2)。次節では、教案の【導入】【展開】【まとめ】の段階で

表2 異文化学習を取り入れた翻訳授業の教案

時間	学習活動	教材・パワポ・配布物
0:00 0:05	【導入】 (1) 本授業の学習項目と学習目標を説明する。 (2) 前回のタスク①の際、大変だった点を考えさせる。 (3) 回答内容を全員に発表させ、内容を共有する。	【本講義の目標】 異文化学習と翻訳 韓国語学と翻訳 韓国の社会・文化、韓国語の語彙・文法に 触れながら翻訳練習を行う。 ◎本日の課題：再度翻訳し、提出する。
0:15 0:20 0:35 0:50 1:05	【展開】 (1) ニュース動画を視聴する。 (2) 「異文化学習と翻訳」として「ソウル・桂洞」について説明し(動画活用)、以下の3点を中心に関連画像や画像を確認し、ニュース動画をもう一度視聴する。①골목 ②한옥 ③목욕탕 (3) ディスカッション：韓国の文化について日本で類似している文化の有無について話し合う。 (4) 「韓国語学と翻訳」として翻訳スキルについて説明し、以下の3点を中心に辞書の記述及び関連画像を確認し、動画を視聴する。 ①새삼 ②낯설다 ③살아 숨 쉬다 (5) 作文練習：学習した表現をもって、韓国語のフレーズを作ってみる練習をし、発表する。	  
1:15	【まとめ】 (1) 授業総括 (2) 課題を提示し、説明する。 (3) 質疑応答	【課題】 再度日本語に翻訳する。 ①ワードで作成する。ワードファイルをアップロード ②ネットや辞書を用いてもOK ③韓国人・日本人に聞いてもOK ④調査した時間を省み、どれぐらいかかったかを最後に ご記入ください。(例) 2:5時間

Mar. 2022

異文化学習を取り入れた韓国語の翻訳授業の実践とその効果

実施した具体的な授業内容について述べる。

2. 実施した授業内容

1) 導入

導入の段階では、本授業の目標と学習項目を伝えたくて、前回の授業でタスク①を行った際、どのようなことが大変だったのかを何分間考えさせた後、全員が回答を発表し、共有した。

2) 展開

(1) 異文化学習と翻訳

展開の段階では、まず今回の原文の元になるニュース動画を視聴した。この際、実際の放送を通して、このテキストのジャンル、書かれた(放送された)意図や目的は何か、読み手は誰になるのかを想像ながら視聴するように指示した。

その後、「異文化学習と翻訳」にあたっては、異文化学習を取り入れた翻訳授業の1つ目の観点である「異文化受容」の観点から対象者が韓国文化に触れ、原文の背景についてより深く理解できるように原文の中心内容である桂洞に関する動画を見せた。次に、学習項目として設定した「路地(골목)・韓屋(한옥)・銭湯(목욕탕)」の概念の画像や動画をもって説明し、「桂洞」をはじめ原文を理解するうえで重要な3つの概念のイメージを持つようにした。この際、これらの辞書的な意味の説明のみならず、日本に類似した物、場所、文化などがあるかを考え、ディスカッションする時間を設けた。日本に似たようなものがある場合と無い場合、どのように文章を理解し、翻訳したらいいのかを自ら考えてみるようにした。つまり、韓国人の生活と密接な関連があるものは、その背景に韓国特有の文化があると同時に、日本には無い文化も存在するため、日本語に訳す際、翻訳をする目的を考えながら読み手が理解できるよう工夫することの重要性についても認識させた。

最後に、元のニュース動画をもう一度視聴させた。対象者には、今後前回の翻訳タスクをもう一度する場合、どのような点に注意すべきかを意識しながら見るように指示した。

(2) 韓国語学と翻訳

次に、「韓国語学と翻訳」にあたっては、まず翻訳の際、必要なスキルは何かについて話し合った。その後、未知の単語や表現がある場合、自然な日本語に翻訳できる方法について、事前に選定した「改めて(새삼)・見慣れない(낯설다)・(抽象的な意味で)残り続けている(살아 숨 쉬다)」を中心に考えることとした。まず、3点の辞書の定義を確認した。この際、「残り続けている(살아 숨 쉬다)」は、二つの動詞で作られたもので、このような慣用表現は、辞書を調べても適切な日本語の表現を探すことが難しいことがあることを説明した。対象者には、このように辞書に載っておらず、相応しい表現が見つからない場合、どのように翻訳するかについて考えさせた。その後、教員は、韓国人が普段よく使う複数の検索エンジン(ウェブサイト)やSNS(特にYouTube)を使って未知の語彙や表現を検索する方法について紹介した。そこから、出てくる表現のニュアンスや文中での意味を意識してみることで、より自然で適切な日本語の表現を見つけ、訳すことができることを説明した。実際、この方法を使って検索した上記の3点の画像や動画を見せ、学生が自ら検索してみる練習を行った。練習後、学習した表現をもって、韓国語で作文する時間を設けた後、発表させた。

3) まとめ

まとめの段階では、授業で学んだ内容を総括し、タスク①のテキストに対して再度日本語に翻訳して

提出することを課題とし、注意事項をアナウンスした。最後に質疑応答の時間をもち、授業を終了した。

V 翻訳活動の分析

分析においては、タスク①の終了後行った翻訳授業の「異文化学習と翻訳」と「韓国語学と翻訳」のパートで扱った学習項目を分析対象とした。

表3 分析対象「골목」「한옥」「목욕탕」の原文及びモデル翻訳文

分析対象	原文及びモデル翻訳文
골목	(1) a. '드라마 명소' 서울 계동 골목의 매력 b. 「ドラマの名所」ソウル・桂洞(ケドン)の路地の魅力
	(2) a. 걷기 좋은 골목길. b. 歩くのが楽しい路地。
	(3) a. 서울 계동 골목으로 가 보겠습니다. b. ソウル・桂洞の路地へ行ってみます。
	(4) a. 그렇게 중앙 고등학교까지 이어진 400미터 길이 계동 골목입니다. b. そのように中央高校までつながる 400mの道が桂洞の路地です。
	(5) a. 그 양쪽 골목으로 한옥이 많이 밀집되어 있는 한옥 마을입니다. b. その両側の路地が伝統家屋のたくさん密集している韓屋の街です。
	(6) a. 먼저, 상점이 밀집된 큰 골목, 먼저 볼까요? b. まず, 商店を密集している大きな路地を先に見てみましょうか。
	(7) a. 과거와 현대가 공존하며 살아 숨쉬는 곳, 계동 골목이었습니다. b. 過去と現代が共存しながら息づく場所, 桂洞の路地でした。
한옥	(8) a. 오늘은 운치 있는 한옥 길인데요. b.今日は, 趣のある伝統家屋の路地ですが,
	(9) a. 그 양쪽 골목으로 한옥이 많이 밀집되어 있는 한옥 마을입니다. b. その両側の路地が伝統家屋のたくさん密集している韓屋の街です。
목욕탕	(10) a. 목욕탕 간판이 낡설지 않죠. b. 銭湯の看板が懐かしい感じですね。
	(11) a. 현재는 목욕탕 아닌 선글라스가 진열된 매장입니다. b. 現在は, 銭湯ではなく, サングラスが並んでいる店です。
	(12) a. 이곳이 우리나라 최초의 목욕탕이었는데요. b. 이곳이韓国初の銭湯だったのですが,
	(13) a. 저희가 목욕탕의 외관과 일부를 유지한 채로, 저희 선글라스 쇼룸으로 만들게 되었어요. b. 私たちが銭湯の外観と一部を維持させたまま, サングラスのショールームにしたのです。
	(14) a. 과거 목욕탕 시절 사진인데요. b. 過去の銭湯時代の写真です。
(15) a. 옛날부터 되게 오래된 목욕탕이라고 들었는데요. b. 昔からとっても古い銭湯だと聞いていました。	

具体的には、「異文化学習と翻訳」においては、「골목」, 「한옥」, 「목욕탕」の3つを対象とした。また、固有名詞として韓国の特定の地域と場所を表すものとして授業でも触れた原文の中心テーマである「계동」と、「계동」を地理的に説明するうえで出てくる「청계천과 종각」「북촌 마을」も分析対象に加えた。「韓国語学と翻訳」においては、「새삼」, 「낯설다」, 「살아 숨 쉬다」に対する翻訳タスク①と②の特徴を検討することを試みた。特に、「새삼」と比較するために、授業時に直接触れていない副詞「은근」も分析対象として加えた。表3・表7・表11・表14・表16において、aは原文の韓国語の文を、bはモデル翻訳文¹⁾を表す。また、対象者の翻訳例の表における○○○は無表記、()の中は対象者を指す。なお、良い翻訳例とは、モデル翻訳文と同様の翻訳またはモデル翻訳文と同じではないものの意味が十分伝わる翻訳のことを表す。

1. 異文化学習と翻訳

1) 生活文化的な事象に対する翻訳の特徴

「異文化学習と翻訳」のパートでは、「골목 (路地)」「한옥 (韓屋)」「목욕탕 (銭湯)」の3点を扱った(表3)。以下では、それぞれの表現が入っている文に対して対象者がどのように翻訳したのかについてタスク①と②の特徴から見ていく。

(1) 「골목 (路地)」に対する翻訳例

まず、「골목 (路地)」は、原文で7回も出現しており、「계동 (桂洞)」を説明するうえで最も重要な語彙である。そのため、この語彙が分からない場合、多くの文を訳すことができなくなる。また「골목」は、TOPIK 語彙目録²⁾によると中級レベルで、ハングル能力検定試験の3級レベルに相当する語彙(ミリネ韓国語教室, 2017)であるため、対象者によっては既知の語彙である可能性があるが、結果からみるとそうではないことが見受けられる。

表4 「골목」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
골목	良い翻訳例	—	路地 (A1, A2, A3, A4, A5), 横丁 (A5)
	その他の翻訳例	住宅街 (A1), ゴルモク (A4) 골목 (A3), ○○○ (A1, A2, A5)	—

対象者は、タスク①において住宅街 (A1), ゴルモク (A4), 골목 (A3), ○○○ (A1, A2, A5) と訳しており「골목」が未知の語彙であったことが窺える。一方、タスク②では、路地 (A1, A2, A3, A4, A5), 横丁 (A5) と正しく訳していた。今回の翻訳授業で「골목」は、「異文化学習と翻訳」のパートで扱われ、対象者が韓国で言う路地がどのようなイメージかどのような感じであるかなど語彙そのものを学習するのではなく、文化的なことに触れることが中心となっていた。だが、タスク②の結果を見ると、対象者では文化的なことに触れる中で未知の語彙として語学学習も同時に行われたと推察できる。対象者 A5 は「골목」に対して「路地」「横丁」と2つの語彙に翻訳をしている。一般的に、日本語の文章では同様の語彙を繰り返して使うことより、その代わりに同じ意味の異なる語彙を使うことが良いとされる。この観点からすると、タスク②の際、辞書などのツールを利用して翻訳したとしても A5 が「골목」を「路地」と「横丁」に訳したのは、読み手の文化を意識した翻訳に取り組んだことと思われる。これは、異文化学習の際、読み手にとってその意味が十分理解できるように工夫するという翻訳の目的を意識させたことがその効果として現われた例とも言えよう。

(2) 「한옥 (韓屋)」に対する翻訳例

次に、「한옥 (韓屋)」に対する翻訳の特徴を見てみると、タスク①では1名を除く対象者が「韓屋」と訳している。また、タスク②では、対象者全員が「韓屋」と訳し、モデル翻訳文と同じではないものの語彙に対する直訳という意味では正しい翻訳をしている。「한옥」は、TOPIK 語彙目録によると初級レベルの語彙である。対象者がタスク①の段階から「한옥」を正しく翻訳できたのは、初級レベルの語彙であり、渡韓経験や様々な媒体により韓国の文化として直接的・間接的に接する機会があり、対象者にとって既に身近なものであった可能性が考えられる。モデル翻訳文は、「한옥」が「伝統家屋」となっている。これは、日本人の読み手によっては、「韓屋」という言葉への知識がない場合、文章全体に対する理解が難しいため、韓国の伝統的な家屋であるということが分かるような訳をしていると推測される。一方、翻訳

授業の異文化学習において、「한옥(韓屋)」のように日本には存在しない言葉の場合、読み手にとってその意味がきちんと伝わるように翻訳するためにはどのようにすべきかについて話し合った。しかし、タスク②において、モデル翻訳文の「伝統家屋」、または「韓屋」^{ヘンパク}、「韓屋(韓国の伝統家屋)」のように翻訳している対象者はおらず、意味伝達という面では適切な翻訳をしているとは言えない。このことから、韓国語学習者は起点文化に関する「既知」の語彙や表現に対して、読み手にとって分かりやすい文に訳すという翻訳の目的を意識したうえで翻訳することが難しい場合があることを示唆する。

表5 「한옥」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
한옥	良い翻訳例	韓屋 (A1, A2, A3, A4)	韓屋 (A1, A2, A3, A4, A5)
	その他の翻訳例	○○○ (A5)	—

(3) 「목욕탕(銭湯)」に対する翻訳例

最後に、「목욕탕(銭湯)」に対する翻訳を見ていく。「목욕탕」は、TOPIK 語彙目録によると初級レベルの語彙であるが、タスク①では1名が無表記をし、他の対象者は木製(A1)、温泉(A2)、温銭(A3)、沐浴湯(A4)と訳しており、無表記や誤訳が多かった。特に、「温泉」、「温銭」と訳した例は、「목욕탕」について多くの人が使うお風呂であることを認識はしていたように見られるが、「銭湯」ではなく「温泉」、「温銭」に誤訳していた。対象者がタスク①を遂行する際、「계동」への知識が全くない中で、どこかの観光地または有名な場所を説明する文章だと想像し、観光地などにあるような温泉であろうと推測して訳している可能性がある。あるいは、対象者の中で、「목욕탕=温泉」といった間違った知識により生じた誤訳である可能性も考えられる。さらに、「沐浴湯」と翻訳した対象者は、「목욕탕」という言葉を耳にしたことはあるが、それが日本に存在する「銭湯」に翻訳することまで至らず、直訳したことと見られる。いずれにせよタスク①では「목욕탕」への知識がなかったと推察されるが、翻訳授業後のタスク②において全ての対象者が「銭湯」、「風呂」と正しく訳した。特に、対象者A5の場合、タスク①では無表記であったが、タスク②では「銭湯」と「温泉」の両方を使って翻訳していることが特徴的である。これは上記の「골목」のように対象者が読み手の立場から読みやすさを意識した翻訳に取り組んでいたと推測できる。

表6 「목욕탕」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
목욕탕	良い翻訳例	—	銭湯 (A1, A2, A3, A4, A5), 風呂 (A5)
	その他の翻訳例	木製 (A1), 温泉 (A2), 温銭 (A3) 沐浴湯 (A4), ○○○ (A5)	—

以上のように、異文化学習で扱った「골목」、「한옥」、「목욕탕」の翻訳例から、文化理解を目的とした異文化学習においても語彙や表現を習得する様子が見られ、翻訳授業における異文化学習が語学学習の効果を促進することが確認できた。また、3点に対するタスク②において、翻訳授業で強調されていた読み手を意識した翻訳をした翻訳例も見られ、ここでも相互文化を理解したうえで翻訳するという異文化学習の効果が示された。しかし、対象者にとって、既知の語彙や表現である場合、目標文化の人、つまり読み手の可読性を意識して翻訳することが難しいことも有りうるということも分かった。そのため、異文化学習の際、韓国語学習者のレベルから既知の語彙であると判断される際は、読み手にとっては未知の

Mar. 2022

異文化学習を取り入れた韓国語の翻訳授業の実践とその効果

表現である可能性があることを常に意識しながら翻訳を行うことを促す必要がある。

2) 地域と場所を表す固有名詞に対する翻訳の特徴

「계동 (桂洞)」, 「청계천과 종각 (清溪川と鐘閣)」, 「북촌 마을 (北村マウル)」は、ソウルのある地域と場所の名前である。以下では、これらの固有名詞に対する対象者のタスク①と②の特徴を見ていく(表7)。

表7 分析対象「계동」「청계천과 종각」「북촌 마을」の原文及びモデル翻訳文

分析対象	原文及びモデル翻訳文
계동	(16) a. '드라마 명소' 서울 계동 골목의 매력 b. 「ドラマの名所」ソウル・桂洞(ケドン)の路地の魅力
	(17) a. 서울 계동 골목으로 가 보겠습니다. b. ソウル・桂洞の路地へ行ってみます。
	(18) a. 계동을 천천히 걷다 보면요, 과거와 현대가 이렇게 함께 할 수 있구나, 새삼 느끼게 되는데요. b. 桂洞をゆっくり歩いてみると、過去と現代がこのように共存できるのだなあと改めて感じます。
	(19) a. 그렇게 중앙 고등학교까지 이어진 400 미터 길이 계동 골목입니다. b. そのように中央高校までつながる 400m の道が桂洞の路地です。
	(20) a. 계동은 청계천과 종각의 북쪽에 위치해 있는 북촌 마을 중의 한 곳입니다. b. 桂洞は清溪川と鐘閣の北側に位置する北村という街の一部です。
	(21) a. 이렇게 멋진 안경 매장으로 바뀐 거 보니까 역시 계동이 정말 멋진 공간이구나, 라는 걸 알 수 있었습니다 b. このように素敵な眼鏡屋に変わったのを見て、やはり桂洞が本当に素敵な空間であるなあとということがわかりました。
	(22) a. 과거와 현대가 공존하며 살아 숨쉬는 곳, 계동 골목이었습니다. b. 過去と現代が共存しながら息づく場所, 桂洞の路地でした。
청계천과 종각	(23) a. 계동은 청계천과 종각의 북쪽에 위치해 있는 북촌 마을 중의 한 곳입니다. b. 桂洞は清溪川と鐘閣の北側に位置する北村という街の一部です。
북촌 마을	(24) a. 계동은 청계천과 종각의 북쪽에 위치해 있는 북촌 마을 중의 한 곳입니다. b. 桂洞は清溪川と鐘閣の北側に位置する北村という街の一部です。

(1) 「계동」

まず、「계동」は、タスク①ではモデル翻訳文と同様に訳した対象者はおらず、2名が無表記をしている。A2は、「ケドン」とカタカナで訳している。これは、漢字では分からないが、「계동」はテキストに頻度高く出てくる中心的な言葉であり、カタカナでも表記しておく必要があると判断し、カタカナで訳していると思われる。他の2名は、「街道」と訳している。

表8 「계동」「청계천과 종각」「북촌 마을」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
계동	良い翻訳例	ケドン (A2)	ケドン (A2), 桂洞 (A1, A3, A4, A5)
	その他の翻訳例	○○○ (A1, A5), 街道 (A3, A4)	—

対象者がこのように翻訳したのは、계동 [ケドン] の発音が日本語の街道 [かいどう] と類似していることと、タイトルにある「명소 (名所)」や文の後半の「골목으로 가 보겠습니다。」という表現から계동이どこか場所を表すと推測したためであると考えられる。タスク②を見ると、4名が「桂洞」と訳しており、前回

の異文化学習を通して、これらが地名や場所であることを意識して調べたうえで翻訳したことが分かる。

(2) 「청계천과 종각」

次に、「청계천과 종각」については、タスク①では4名の対象者が無表記を、1名が「청계천과 종각」と原文をそのまま記入していることから、最初「청계천과 종각」が対象者にとっては未知であったことが推察できる。タスク②では全員が「清溪川と鐘閣」とモデル翻訳文と同様に訳している。これは、「계동」と同様、異文化学習を通して、桂洞に近い場所を表す言葉であることを認識できたためであると推測できる。

表9 「청계천과 종각」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
청계천과 종각	良い翻訳例	—	清溪川と鐘閣 (A1, A2, A3, A4, A5)
	その他の翻訳例	○○○ (A1, A2, A4, A5) 청계천과 종각 (A3)	—

(3) 「북촌 마을」

最後に、「북촌 마을」に関しては、タスク①では2名が無表記をしており、3名が「○○村」と訳している。これは、「마을」がTOPIK 語彙目録によると初級レベルであり、ハングル能力検定の3級レベルに相当する語彙(ミリネ韓国語教室、前掲書)であるため、対象者は既知の語彙に対してはなるべく翻訳しようとした意志が窺える。タスク②では、「北村町」、「北村という村」と訳した対象者がいた。

表10 「북촌 마을」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
북촌 마을	良い翻訳例	—	北村町 (A1) 北村という村 (A2, A4)
	その他の翻訳例	○○○ (A1, A5) ○○村 (A2, A3, A4)	北村 (A3), 北村村 (A5)

この翻訳は、マウルは「村」を意味するが、「村」を北村と続けて訳すと、「北村村」となり、同じ意味を持つものが続き読み手によっては誤表記と思われる可能性があるため、対象者は「-村」ではなく「-町」や「-という村」というように重複しない言葉で訳したことが分かる。これは、前回の異文化学習において文のジャンル、書かれた意図や目的を考えながらニュース動画を視聴し、翻訳について考えたことで、読み手のことを意識した翻訳ができたと考えられる。

以上のように、固有名詞に関して、対象者は全体的にタスク①よりタスク②でモデル翻訳文に近い翻訳ができていた。このことは、実際、未知の地名や場所に対して無表記とした対象者が多いが、異文化学習を通して地名や場所であることを知覚して調べ、正しく翻訳できるようになる可能性があることを示す。さらに、読み手が誰なのかを意識した翻訳の例からは、対象者が異文化学習で翻訳そのものの意味に気づいたことが窺える。

2. 韓国語学と翻訳

1) 「새삼」「은근」に対する翻訳の特徴

本節では、「韓国語学と翻訳」のパートにおける語彙や表現の学習内容について記述する。上述した通

り、本研究では、主に「새삼」「낯설지 않죠」「살아 숨쉬는」の表現に注目した(表11・14・16)。初見文の翻訳であるタスク①と、翻訳授業を経てタスク②を行ったそれぞれの翻訳内容を示し、特徴を分析する。

まず、韓国語学の1点目の学習項目は「새삼」であるが、モデル翻訳文の通り、文脈上適切であると思われる日本語は「改めて」という語である。「새삼」は、原文で1回出現しており、副詞として「느끼게 되는데요」の述語を修飾している句構成となっている。

表11 分析対象「새삼」の原文及びモデル翻訳文

分析対象	原文及びモデル翻訳文
새삼	(25) a. 계동을 천천히 걷다 보면요, 과거와 현대가 이렇게 함께 할 수 있구나, 새삼 느끼게 되는데요. b. 桂洞をゆっくり歩いていますと、過去と現代がこのように共存できるのだなあと改めて感じます。
은근	(26) a. 은근, 그 느낌, 잘 살렸습니다. b. なかなか, この感じ, うまく生かしています。

表12 「새삼」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
새삼	良い翻訳例	改めて (A3)	改めて (A1, A2, A3, A4)
	その他の翻訳例	○○○ (A1, A2, A5), 新鮮に (A4)	○○○ (A5)

「새삼」は、TOPIK 語彙目録によると中級レベルの語彙であり、対象者にとって学習していない語彙である可能性が高い。表12で示している通り、タスク①での共通していることは、殆どの対象者が無表記または誤訳をしている。詳細を見てみると、「改めて (A3)」と正しく翻訳したのは1名のみである。その他の翻訳例として、「新鮮に (A4)」があるが本来の文脈と異なる意味になってしまう。3名の対象者は、「○○○ (A1, A2, A5)」と翻訳していないことがわかる。授業時に学習したのは、「새삼」の使用された文脈等を提示し、当該文脈状況の場合、日本語ではどのような表現をするかを考えてみる時間を設けた。その結果として、タスク②では、「改めて (A1, A2, A3, A4)」と正しく翻訳をしている対象者が4名いることがわかった。対象者は自ら考察したり、もしくは辞書等で調査したりした結果であると考ええる。

一方、授業では直接取り扱っていなかったが、副詞「은근」という語について、タスクがどのような過程を経ているかを見てみる。「은근」が使用された原文は、「은근 그 느낌 잘 살렸습니다」で、モデル翻訳文としては「なかなか、この感じ、うまく生かしています」となっている。

表13 「은근」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
은근	良い翻訳例	—	なかなか (A1), なかなか (A4)
	その他の翻訳例	○○○ (A1, A2, A3, A4, A5)	なんとなく (A2) さりげなく (A3), 何気に (A5)

「은근」は副詞として働き、「그 느낌 잘 살렸습니다」の述語を修飾している句構成となっている。「은근」はTOPIK 語彙目録の初中級には載っていないが、ハングル能力検定試験の準2級に出題される語彙(李昌圭, 2013)であり、上級レベルのものに相当することが予想される。つまり、対象者にとって学習して

いない語彙である可能性が高い。また、「은근」の辞書的な意味について調べると、「ひそかに」、「何気に」、「何となく」となっている。しかし、原文では、「意外に」、「予想以上に」と辞書的な意味とは異なる意味として使われている。タスク①では全員の対象者が翻訳できず、タスク②でも3名の対象者が辞書的な意味での語彙に翻訳するのに留まっていることがわかる。このような、「은근」に対する対象者の誤訳例は、前後の文脈をあまり考えずに辞書に頼りすぎて翻訳したためであると推察できる。授業の際に視聴していたニュース動画の全体の雰囲気や流れを深く考えて翻訳することと、副詞の翻訳に対する注意点として述語に留意することを抑えておく必要があったのではないかと思われる。

つまり、上記の副詞の翻訳例を見て、授業で取り入れた学習として、未知の語彙や表現があった場合、文脈を理解し、日本語としてどのような表現を入れたほうが自然であるかを練習することが重要であることがいえよう。

2) 「낯설지 않죠」に対する翻訳の特徴

次に、韓国語学の2点目の学習項目は、「낯설지 않죠」である。原文は、「목욕탕 간판이 낯설지 않죠」であり、モデル翻訳文として「銭湯の看板が懐かしい感じですね」と翻訳することができる。翻訳文の全体で1回出現しており、「낯설다+지+않다」というコロケーションの句構成である。「낯설다」は、TOPIK 語彙目録によると中級レベルの語彙であり、対象者にとって学習していない表現である可能性が高い。以下の表14で示している通り、タスク①では、対象者全員が正しい翻訳ができなく、無表記が4名、そして逆の意味となる「見慣れない」と翻訳した対象者が1名と確認した。翻訳授業では、特に「낯설다+않다」というコロケーション関係である語彙・表現について例を提示しながら、日本語での表現がどのようになるかを学習した。教員はなるべく翻訳解答を直接示さないというスタンスであったが、「見慣れない」という表現から、「見慣れる」を引き出した対象者は、タスク②の結果の通り、「見慣れているでしょう(A1, A2)」の2名であった。

表14 分析対象「낯설지 않죠」の原文及びモデル翻訳文

分析対象	原文及びモデル翻訳文
낯설지 않죠	(27) a. 목욕탕 간판이 낯설지 않죠. b. 銭湯の看板が懐かしい感じですね。

表15 「낯설지 않죠」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
낯설지 않죠	良い翻訳例	—	見慣れているでしょう(A1, A2)
	その他の翻訳例	○○○(A1, A3, A4, A5) 見慣れないでしょう(A2)	見慣れないでしょう(A3) 懐かしいでしょう(A4) 馴染みがありません(A5)

「낯설지 않죠」に対する誤訳例は、「見慣れる」「馴染みがある」と翻訳した例から見ると、「낯설다」が日本語では「見慣れる+ない」、「馴染みが+ない」というような否定型を用いる意味であることと、「낯설지+않다」でさらに否定が加わっており、肯定型の意味となるという句構成を理解することができなかったのが窺える。このように、語や句構成を自ら理解できるように、翻訳授業で説明し、コロケーション関係について矛盾のない表現を選択するように指導する必要があると考える。

3) 「살아 숨쉬는」に対する翻訳の特徴

最後に、韓国語学の3点目に取り扱った学習項目である「살아 숨쉬는」について記述する。「살아 숨쉬는」を含む原文は、2回出現しているが、1つ目は「이곳은 과거가 현재 진행형으로 살아 숨 쉬는 골목입니다」で、モデル翻訳文としては「ここは、過去が現在進行形で息づく路地です」となっており、2つ目は「과거와 현대가 공존하며 살아 숨쉬는 곳, 계동 골목이었습니다」で、モデル翻訳文は「過去と現代が共存しながら息づく所、桂洞の路地でした」と翻訳している。両者とも、場所を表す名詞「골목」と「곳」を修飾する名詞修飾節として表現されている。

「살아 숨쉬다」の語構成は、「살다+아(서)+숨+(을)+쉬다」であり、「살다」は、TOPIK 語彙目録によると初級レベル、「숨」は中級レベル、「쉬다」は初級レベルである。このような語彙が合わさり、抽象的な意味として、日本語では「息づく」という表現に集約し翻訳することができる。

表16 分析対象「살아 숨쉬는」の原文及びモデル翻訳文

分析対象	原文及びモデル翻訳文
살아 숨쉬는	(28) a. 이곳은 과거가 현재 진행형으로 살아 숨 쉬는 골목입니다. b. ここは、過去が現在進行形で息づく路地です。
	(29) a. 과거와 현대가 공존하며 살아 숨쉬는 곳, 계동 골목이었습니다. b. 過去と現代が共存しながら息づく所、桂洞の路地でした。

表17 「살아 숨쉬는」に対する翻訳例

		タスク①	タスク②
살아 숨쉬는	良い翻訳例	—	息づいている (A3, A4) 息づく (A5)
	その他の翻訳例	○○○ (A1, A4, A5) 生きている (A2) 生き、息をしている (A3) 一息つける (A1) 残っている (A2) 生きる○○○な (A4)	生きている (A1, A4, A5) 残っている (A1, A2)

このようなコロケーション関係の理解は、先述した「낮설지 않죠」と同様に、高レベルでの学習内容となるため、初見文における翻訳は対象者にとっては難しいものであったと予測する。タスク①の結果としても、無表記を含む、「生きる」という表現を直訳した形式で表現していることから、翻訳の難易度が高かったことが窺える。翻訳授業では、「살아 숨쉬다」が日本語では一つの表現として表すことができる点であり、抽象的な意味として、適切な表現を探し出すことを強調し指導した。つまり、韓国語の表現を一つ一つ直訳する必要はなく、全体の文脈や内容を正確に理解し、その内容を十分に伝えられる日本語を考え、調査する力を養うことが重要であると考えた。その結果として、タスク②では「息づく」や「息づいている」と正しく翻訳した内容もあるが、一方、同じ対象者であっても、異なる翻訳結果を見せているケースもあった。つまり、「息づく」動作の対象となる場所によって、異なるものであると判断したためであると考えられる。また、「生きる」と「息をする」という表現の選択ではなく、「残っている」と翻訳したケースも2件あり、前後の文脈から推測し、日本語として入れても意味が通じる語彙を選択したと考えられる。日本語の文章としては自然であるが、原文の意味を生かすことができなかつた点が指摘できよう。

以上のように、翻訳活動において、未知の語彙や表現に対して辞書で調べ、適切に翻訳するケースも

ある反面、特定の語彙が辞書の中心的意味として使われていない場合、前後の文脈を意識して訳さなければ、誤訳をすることもあることが明らかになった。このことから、翻訳授業の際、未知の語彙や表現への教授も重要であるが、各々の文を訳すこと以上に広い視野をもって文章全体を意識しながら翻訳するスキルを身につけさせる取り組みも重要であることが示唆される。なお、個々の語彙を学習することとともに、語構成や句構成におけるコロケーション関係を理解することが重要であることがいえる。

VI おわりに

本研究では、異文化学習に重点を置いた新たな翻訳授業の設計を試み、そのような翻訳授業の有効性を検討するために、対象者の翻訳授業前と翻訳授業後の翻訳タスクにおける変化や特徴を確認した。

その結果、以下のことが明らかになった。まず、翻訳授業における異文化学習の効果として、対象者が翻訳授業を通して異文化を「受容」し、「伝達」することが可能になったことが挙げられる。つまり、起点言語の文化である韓国文化について触れることができ、その知識を基に翻訳タスクを行い、また目標文化の読み手を意識した分かりやすい翻訳に取り組んでいる様子が見られたのである。さらに、異文化学習の過程で未知であった語彙や表現を習得できたケースも見られ、異文化学習による語学学習の効果も確認できた。

次に、「韓国語学と翻訳」の観点からは、翻訳における文章全体への理解の重要性が示された。対象者によっては辞書的な意味で機械的に翻訳をして誤訳になってしまうケースが確認された。特に、未知の語彙や表現に対してそのような傾向が見られ、未知の語彙であっても辞書に頼りすぎずに前後の文脈を把握して翻訳する練習の必要性が示唆された。さらに、コロケーション関係への理解が十分でないために誤訳するケースも見られ、全体の文脈を意識して一々訳さなくても効果的に意味伝達できる日本語の表現を選択する練習も翻訳授業では重要な学習項目となることが把握できた。

上記の結果から、異文化学習を取り入れた韓国語翻訳授業の実践に対して、以下のような提言ができると考える。

第一に、起点言語や文化に対する理解を深めることを重視しつつ、教授法としては教員が直接教えるより異文化について多様なレリアアを活用する調べ方を提案し、学習者が自ら異文化に触れられるようにサポートすることが望ましい。このように接した異文化経験を生かして翻訳していくなかで学習者の翻訳能力はより上達できると考える。それと共に、授業で取り扱った異文化理解の手法を用い、授業外でも自律的に学習者自ら翻訳活動を行い、さらなる異文化理解を深めていくことができよう。

第二に、翻訳授業におけるオンラインツールの活用がある。今回の実施授業では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンライン授業と対面授業が混合された形で授業が行われた。近年スマホの普及により、オンラインのツールを用いた授業が実現可能となった背景がある。時間と空間の制約がなく、さまざまなコンテンツを活用し、授業を進めることができる。翻訳活動としても、従来辞書や関連書籍を図書館で調査することがネットの辞書サイトなどで簡単にできるようになった。このようなオンラインツールの活用には便宜さという利点がある反面、情報の信憑性や確認等に関する利用における注意点について教授する必要性が浮き彫りになってくる。また、様々な翻訳資料を使用することができるようになったが、資料の選定においても真正性に基づいた問題解決学習を提案することも可能であろう。

最後に、異文化学習において理解した起点言語・文化を伝達する側として翻訳する際、目標言語や文化も念頭に置き、翻訳文の読み手の理解を配慮した翻訳を遂行できるように指導することが重要である。今回の実施授業では、グループディスカッションを設け、日本における類似概念や文化について意見を出し合う時間を設けた。このような過程は、読み手を意識することは翻訳において当然なことではある

が、常に両方の言語と文化について考え続けることは良い翻訳の一つの決め手になるためである。

本研究を通じて、異文化学習を取り入れた翻訳授業の実践の可能性とその効果が確認できた。しかし、今回の研究では、ある特定のテキストを扱っており、また対象者も中上級レベルの学習者であったため、全ての韓国語学習者に対する一般化はできない。今後はより多様なテーマやジャンルのテキストと様々な学習レベルの韓国語学習者に対する更なる研究が必要である。また、翻訳授業設計においても改善の余地があり、今後は、学習者向けに授業に関する振り返り調査を行うことで授業の効果をより明確にすべきである。また、学習者同士のピアラーニングの内容を記録し、翻訳活動のポートフォリオ作成ができるように授業設計をすることで、学習者が翻訳活動を通じて異文化理解を深め、韓国語学能力も向上していることが可視化できると考える。

注

- 1) モデル翻訳文は、当該書籍に付されているものである。異なる語彙や表現を用いることも可能であるため、正しい翻訳文とせず、モデル翻訳文とし、判断基準として参考とした。
- 2) TOPIKの語彙目録について、「国立国際教育院 TOPIK (韓国語能力試験) 語彙目録」を参考にした。以下、同様。
<https://www.topik.go.kr/> (2021年11月11日閲覧)

参考文献

- 李昌圭『ハングル能力検定試験対策問題集:準2級』朝日出版社, 2013年。
- 姜英淑・金賢信・孟信美・印省熙・黄善英・秋賢淑・黒澤朋子・林史樹『KBSニュースで学ぶ時事韓国語』白帝社, 2019年, 109-111, 150ページ。
- 金珉秀・村上治美「学習言語を相互に利用した異文化理解授業－韓国語教育の視点から見た授業の実践－」『朝鮮語教育－理論と実践－』14, 朝鮮語教育学会, 2019年3月, 109-129ページ。
- 武田珂代子「翻訳学とは何か」鳥飼玖美子編『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房, 2013年, 94-107ページ。
- ミリネ韓国語教室『hanaの韓国語単語〈初中級編〉ハン検3級レベル』HANA (インプレス), 2017年。
- 文吉英「小説『ワンドゥギ』の日本語翻訳にみる翻訳ストラテジー－異文化受容の視点からの一考察－」『朝鮮語教育－理論と実践－』15, 朝鮮語教育学会, 2020年3月, 55-68ページ。
- ワリード・イブラヒム「翻訳教育と異文化理解－アラビア語から日本語への字幕作成を例として－」『東海大学大学院日本語教育学論集』1-6, 東海大学大学院文学研究科日本文学科日本語教育学コース, 2019年3月, 86-96ページ。
- 임형재・우메무라마유미, “일본어권 학습자를 위한 한국어 번역교육 고찰－한국어 통·번역 교육과정을 중심으로－,” *언어와 문화*, 15-4, 2019, 11, pp.183-208.
- 최정순, “한국어교육의 현황 및 발전 방향－언어교육에서 문화교육까지 문화 간 의사소통적 접근법을 제안하며－,” *한국고전연구*, 27, 2013, 6, pp.6-29.

(2021年11月19日掲載決定)

